

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201872		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社静岡支店		
事業所名	静岡ケアハートガーデン グループホーム新伝馬		
所在地	静岡県静岡市葵区新伝馬1-2-14		
自己評価作成日	令和元年 1月 17日	評価結果市町村受理日	令和2年 3月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 2月 7日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 3階建ての2階部分のベランダの広さと、前に建物が建ってないので、日当たりがいい事です。ベランダに面して掃き出し窓が続いているので、利用者様がそのまま出入口できて、段差もなく車いすでも楽に行き来できています。  
イベントとして夏は流しソーメン、夏祭りでは屋台などを作り活用している。他には、ガーデン用の日傘がありその下で皆様とくつろいでいる。  
② 階段踊り場に、大きな紙で作った木を作成しており、利用者様とスタッフと考え季節の花、実、雪などを飾り介護用の本などに投稿している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは花火大会で有名な河川の近くにあり、間もなく開所3年目を迎える。利用者が1日の大半を過ごすリビングは太陽の日差しが差し込み、段差のない広いベランダとひと続きであることから、一層広く開放的である。ホーム内は空気清浄機や加湿器が備えられ、エアコンの掃除もこまめにされており、感染症の対策を意識している。この効果もあり、冬場の今も風邪やインフルエンザ等の利用者はいない。職員と上司の関係も良好であり、利用者の1日をまとめたセンター方式のD-4シートをホーム独自の内容を追加し情報を共有している。また、高齢のご家族にとって不安な看取りについても実践に向けた準備をしながら自然の流れで行っている。以前課題であった地域との関わりは、2ヶ月毎の運営会議で町内会長や民生委員の参加も定着しており、情報交換の場となっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープニングメンバー、中途社員も理念に基づき共有し管理者の元で実践している。	「利用者一人ひとりを深く知り、その人らしい生活を送れるよう寄り添い支えていきます」という理念を各階それぞれに掲示し、利用者や来訪者でも見えるようになっている。職員も意識してケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りや学区内の防災訓練、町内の敬老会にも顔を出している。	自治会に加入しており、地域の行事は運営推進会議で確認している。地元の「安倍ごころ」の行事で町内の皆さんと一緒に楽しんだり、夏には厄除けの輪くぐりに参加している。また小学校に出向いた際、緊急避難場所としてもホームのPRを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、井宮小学校主催の総合学習「福祉フェスティバル」に講師として参加し、児童に認知症の人の理解や車いすの使い方を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様、家族様、地域包括、民生委員、新伝馬町内会長、出席は平均8名、町内の意見が聞けて、地域のことがより多く知る事ができる。	運営推進会議は奇数月第3木曜日15時からを定例とし、案内状も出して参加しやすくしている。町内会長、民生員、家族の方の参加も定着して、地域に向けてホームの様子を報告し、地域の詳細を知る機会として有意義な会議となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定調査(更新・区分)などで申請に多く行く事があったため、情報提供、共有を実施できたと思われる。	今年度は入居者7名の介護度の見直しがあり、副ホーム長は電話連絡や訪問で市担当者とは密に連絡をしてホームの状況を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年1回のホーム内研修にて教育をしている。当社のKYTシートも活用してスタッフ同士の話し合いも出来ている。	身体拘束廃止ゼロ宣言の掲示もあり周知されている。新人研修にも必ず取り上げている。日頃からホーム独自のKYTシートを使ってテーマを決めて職員の知識や考え方を記述、提出してもらい副ホーム長が確認し、アドバイスや理解に努めている。	身体拘束のひとつであるスピーチロックに対して職員は意識してはいるが、ハッと気づく場面もあるようなので、今一度職員全員で継続的な取り組みができることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回のホーム内研修にて教育をしている。発見時の通報義務がある事もスタッフ全員知っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回のホーム内研修にて成年後見人成年について取り扱った。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて、家族や本人の不安や疑問が残らないように、説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書内に、外部連絡、相談先を記載してる。	家族の訪問の際や、また運営推進会議で意見を聞くようにしている。病院受診の際、欲しい物リストを家族からもらい支援につなげたり、家族に介護職の方もおり、要望によりエアマットから普通のマットに変えた経緯もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年1回三菱電機ライフサービス((株)として職場懇談会を実施している。質問事項への文章での回答も行っている。	事前に職員から要望を聴き、懇談会に参加している。主に福祉用具の購入等を希望し導入に繋げている。今年は車いすでも入浴できる福祉用具を希望している。また職員が希望する研修は受講料を会社が負担し受講者し易くしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員社員制度に基づき、キャリアパス制度を完備、設置している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間行事を作成しており、ホーム内・外部と一人ひとりが、自由に受けられるにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三菱電機ライフサービス内、介護サービス課の元で、全国にある事業所に、訪問したり、出向いたりしてお互いに情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメントにて、本人、NS、Drより聞き取りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前アセスメントにて、十分な聞き取りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期ケアプラン作成時に入居に至った経緯を踏まえ必要な対応を織り込むように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフ間でも、傾聴、共感の姿勢をもち、利用者様にも同じ様に接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフ間でも、傾聴、共感の姿勢をもち、家族とも関わりを大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	センター方式の理念に基づき本人、背景を踏まえた関わりを日々、指導しているが、継続課題となっている。	近隣に居住していた利用者も多いため、散歩で住民の方に声をかけて頂いたり、入居前の職場の近くを通り昔話に花が咲くこともある。また、特別養護老人ホームへの農作業へ行ったり、ランチを一緒にするなど馴染みを大切に過ごしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の趣味、性格等を踏まえながら、出来る利用者様が教えてくれたりと、皆で支え合えるようにスタッフも支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、死亡、退去のご家族様との連絡を取り、月1回はホームに顔を出していただき、話し相手になったり、相談や支援をしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	背景等、事前情報時には、必ず2名以上訪問し情報を得ている。入居後、担当を決めて本人の直接発した言葉を傾聴に努めている。	入居を決める際、2名以上で出向き情報を共有している。入居後は利用者毎に担当を決めて、入浴時等リラックスできる時間にご本人のお話を聴いている。家族からの連絡に関しては副施設長が窓口となり、職員に伝え共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	背景等、事前情報を元にカンファレンスにてスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月1回のカンファレンスでモニタリングに加え、担当者がアセスメントを実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のカンファレンスでモニタリングに加え、担当者がアセスメントを実施している。	6か月に1回見直しを行い、まず本人に確認をしている。家族には来訪時に説明して了解を得ている。利用者をより深く理解できるように担当者を決め、介護計画作成時にはケアマネジャーと管理者と共に話し合いを行っている。	利用者についての気づきを、口頭と申し送りノートで職員に伝えているが、見落とししてしまう場合がある。全ての職員が把握できるような工夫が期待される。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間生活変化シート(D-4シート)を活用している。見たままの様子を記入するように、事実を元に評価、検討するように指導している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアの観点から、一人のニーズを意識して取り組むように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	実践力はまだまだであるが、入居前、入居後のアセスメントを充分行い、地域資源を活かしているように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にホームのかかりつけ医、歯科医、眼科医も含め医療を受けられるようにしている。	利用者全員が事業所の協力医で、週2回の訪問診療がある。歯科医の訪問歯科は週1回である。皮膚科等の専門医には家族の付き添いを基本としている。協力医は24時間体制で看取りにも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	雇用契約している看護師と連携し情報を共有している。訪問看護師とも共有し、介護スタッフも立会い対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関とは受診など同行する機会が多くあるため情報交換は、常に取っている。また入院中の利用者様状態に関しても必要に応じて、様子を伺いに行くなどしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応に関しては入居契約時に、説明、合意を図っている。これを踏まえて終末期には早い段階で医療カンファレンスを行い、家族等と相談の上同意書と介護計画を策定し支援行っている。	入居時に重度化に関わる指針を説明し、同意を得ている。日常生活の様子に変化があれば医師や看護師に相談し、医師の意見書と共に家族に説明を行っている。カンファレンスで話し合った内容を職員全員が共有し、支援に取り組む方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	カンファレンス等で緊急フローの確認と見直しに努めている。念1回応急手当の研修を行っている。またスタッフ同士の確認も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。夜間想定訓練も行っている。地域の一人住まいの高齢者や、災害弱者の受け入れも可能としている。運営推進会議には、町内会長、民生委員、包括支援センターに伝達している。	年2回の火災訓練を行い、法人の方針で夜間想定訓練は必ず実施している。カーテンからの出火を想定したバケツの受け渡し訓練の様子がお便りで確認できた。備蓄品は3日分の用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重点課題として認識している。毎年接遇マナーの研修を行っている。スタッフ同士でも、行動や言葉使いに関しては、言えるように環境にある。	法人の課長が講師となり、事業所内で接遇研修を実施している。呼称については家族に確認を取っている。かつての役職名等本人が慣れ親しんだ呼び方をする利用者もいる。気になる点は職員同士がその場で注意し合えるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のケア、個別に担当者がコミュニケーションを図り、要望を聞いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプラン作成時に本人の意思を尊重し、その人らしい視点で考え指導している。カンファレンス等で決めて実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみの用品は充実している。朝の整容には特に気を付けている。スタッフと共に、オシャレができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの残存機能残存能力の出来ること、出来ない事の分担を分けて、生活習慣に応じて対応している。	朝と夕食は職員の手作で、昼食のみ宅配弁当を利用している。昼食前に専門の映像を見ながら職員と一緒に口腔体操をしている。利用者と一緒に職員も食事をし過ごしている。利用者は皿洗いやテーブル拭きをしたり、手作りクッキーの型抜きをする等を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師の指示や制約がある利用者様もあり、家族様、本人との話し合い、確認しながら対応するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週1回の訪問歯科の元、汚れや臭いなどを教えていただき、声掛け、介助をしながら、口腔ケア用品を活用し対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立支援の観点から時間でのトイレ誘導を行い、変更があればカンファレンスにて相談し自立支援を行う。	排泄チェック表を使用し、声掛けしてトイレでの排泄支援を行っている。入居時は声掛け誘導により改善がみられたが、近年は介護度の重度化により現状維持が難しくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師による指導を行いながら、薬に頼り過ぎないようにして、体操、散歩などに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の中でなるべく希望やタイミングに合わせて実施している。ある程度は、曜日を決めて習慣つくりをして入浴を出来る楽しみを味わってもらうように努めている。	入浴は週2回で、その人のペースに合わせてゆっくりな入浴をしている。入浴習慣が週1回の利用者に無理強いはしていない。入浴できない場合には、ドライシャンプーや新たに購入したベッド上部で洗髪する洗髪槽を使用し清潔を保っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣に合わせた対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師によるきめ細かいお薬情報シートまたは、薬剤師がいつでも相談受け入れてくれるので、そのつどスタッフに周知できる体制になっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作業活動、調理補助、食事の後片付け、洗濯物たたみなど、その人に合わせた支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等の外出は積極的に行っている。正月やお祭りなどしか行けない神社や大型施設などに出かけている。	天気の良い日に事業所周辺や近くの土手を散歩したり、ベランダで日光浴をしたりしている。また、車で護国神社や市の交流センターに出掛けたり、病院受診する際に、合わせて家族と外出している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物同行サービスを行っている。残存能力を活かして、支払いなどはレジに行ってもらうなどして対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話などは本人希望により、家族様合意の上対応している。年賀状なども本人様より送らせていただきます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者様が制作した季節もののオブジェなど展示している。利用者様に合った空調、管理適度採光、など行っている。	事業所内には空気清浄機と加湿器が設置されている。換気扇と空調機のフィルター交換は毎月行っている。居間は明るく、利用者は広いベランダでプランターの野菜や花を育てている。清掃は職員と掃除を手伝う利用者もおり清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの性格などを意識し、席などの配置、一人で居られる場所として、ベランダに椅子やコーナー等へのソファの設置などを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく馴染みある物をお持ちいただき、安全面に考慮しながら、本人と相談上っている。	クローゼットは備え付けで、ベッドは各々が持ち込んでいる。ベッド以外の家具を持ち込む利用者は少なく、部屋は広々としている。テレビやぬいぐるみが置かれ、部屋で小さい蘭を育てている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーフリー、目視による表示等、安全かつ自立した生活が送れるように配慮している。		